

OGOSHI Tetsuya

おごしてつや

教授 御興哲也 1951生

I 学位 文学修士

II 専門分野 イギリス文学

III 略歴

1974年3月 京都大学文学部英語学英文学専攻卒業（文学士）
1974年4月 京都大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程入学
1977年3月 同 上 修士課程修了（文学修士）
1977年4月 同 上 博士後期課程進学
1980年3月 同 上 博士後期課程満期退学
1980年4月 神戸市外国語大学専任講師就任
1981年4月 同 上 助教授昇任
1989年4月 英国ケンブリッジ大学在外研究員（～1990年3月）
1997年4月 神戸市外国語大学教授昇任 現在に至る

IV 研究活動

イギリスのモダニズム作家たち（主としてコンラッド、ジョイス、ウルフ）における「近代的自己」への懐疑と不信、及びそれらがもたらす言語や文体の変容について、具体的に個々の作品を検討するとともに、当時の社会状況や思想的背景も考慮に入れつつ、ひとつの文芸潮流としてのモダニズムがもつ今日的価値と意味について考える。

1. 著書

『「自己」の遠さ - コンラッド・ジョイス・ウルフ』 単著 近代文芸社 1997

2. 論文

「“Marlow’s Inconclusive Experiences” - コンラッドの語りの技法をめぐる一考察」（*The Albion* 復刊 25号所収）
単著 京大英文学会 1979
「水の遠さ - ヴァージニア・ウルフのモチーフをめぐって」（『菅・御興両教授退官記念論文集』所収） 単著 あぼろん社 1980
「分身の宿命 - ‘The Secret Sharer’を中心に -」（『神戸外大論叢』第31巻第4号所収） 単著 外大研究会 1980
「“paralysis”の誘惑 - *Dubliners*をめぐって -」（『神戸外大論叢』第33巻第4号所収） 単著 外大研究会 1982
「埋められなかった空間 - *To the Lighthouse*をめぐって」（『英国小説研究』第14冊所収） 単著 篠崎書林 1984
「「距離」の逆説 - *Mrs. Dalloway*をめぐって」（『英語青年』第130巻第11号所収） 単著 研究社 1985
「「聞く」こと不幸 - *The Waves*をめぐって(1)」（『神戸外大論叢』第38巻第1号所収） 単著 外大研究会 1987
「「言葉」をなくした道化 - *The Waves*をめぐって(2)」（『神戸外大論叢』第39巻第1号所収） 単著 外大研究会 1988
「『幕間』としての一日」（『ヴァージニア・ウルフ研究』第8号所収） 単著 日本ヴァージニア・ウルフ協会 1991
「ナルシスを真似ながら - 『ジェイコブの部屋』試論」（『神戸外大論叢』第43巻第4号所収） 単著 外大研究会 1992
「『灯台へ』再訪 - J. Hillis Millerに倣って」（『英国小説研究』第17冊所収） 単著 英潮社 1995
「逃げる青年スティーヴン - *A Portrait of the Artist as a Young Man*を読む」（『神戸外大論叢』第46巻第1号所収）
単著 外大研究会 1995
「擬態の悲劇 - 『西欧の目の下に』試論」（『神戸外大論叢』第49巻第6号所収） 単著 外大研究会 1998
「伝統の中にあるジョイス」（『英語青年』第148巻第10号所収） 単著 研究社 2003
「“A Pure Woman”としてのテス - イギリス文学の中の女性像」（『外国学研究』59号所収） 単著 外国学研究所 2004
「「イーヴリン」の勁さ」（『英語青年』第150巻第2号所収） 単著 研究社 2004
「「軽さ」と「重さ」の狭間で - ジェイムズとウルフ」（『ヘンリー・ジェイムズと華麗な仲間たち』所収） 単著 英宝社 2004

3. その他の研究活動

(1) 訳書

『姦通の文学 - 契約と違犯（トニー・タナー著）』 共訳 朝日出版社 1986

『灯台へ（ヴァージニア・ウルフ著）』 単訳 岩波書店 2004

(2) 書評

「Jean O, Love, *Virginia Woolf: Sources of Madness and Art*」（『日英文学研究』第56巻第2号所収） 単著 日本

英文学会 1979

「深沢 俊『ヴァージニア・ウルフ入門』(『英語青年』第156巻第11号所収) 単著 研究社 1983

「Lyndall Gordon, *Virginia Woolf: A Writer's Life*」(『英文学研究』第63巻第2号所収) 単著 日本英文学会 1986

「Q. D. Leavis, *Collected Essays*」(『英文学研究』第67巻第2号所収) 単著 日本英文学会 1991

「宮田恭子『ウルフの部屋』(『英語青年』第138巻第4号所収) 単著 研究社 1992

「丹治 愛『モダニズムの詩学』(『英語青年』第140巻第7号所収) 単著 研究社 1994

「コンラッドを読むレビュー」(『英文学春秋』第7号所収) 単著 臨川書店 2000

(3) 口頭発表

「“paralysis”の誘惑」京大英文学会 京都大学 1982

「埋められなかった空間」日本英文学会 関西大学 1984

シンポジウム「ウルフ批評の潮流」にて発表 ヴァージニア・ウルフ協会 桜美林大学 1994

シンポジウム「『幕間』について - 語り・時間・共同体」にて発表 ヴァージニア・ウルフ協会 帝京大学 2004

V 教育活動 (2004年度)

「英米文学特殊講義」(選択科目/語学文学科目C/学部英米学科) 文学作品のなかの「時間」と、作家のメッセージや時代思潮のかかわりについて考察する。

「英語講読(1)」(必修科目/専攻語学/第2部英米学科Ⅱ階程) 現代の短編小説を読みながら、その構成や文体の特徴を考える。

「研究指導」(必修科目/学部・第2部英米学科)

「英米文学研究」(大学院外国語学研究科/英語学専攻/修士課程) 現代イギリス小説を手法やテーマの観点から検討し、最近の批評動向についても考える。

「欧米文化演習Ⅱ」(大学院外国語学研究科/文化交流専攻/博士課程) モダニズムの運動が現代文学に果たした役割を考察し、その思想的意義に検討を加える。

VI 学会活動

日本英文学会(編集顧問)、京大英文学会、ヴァージニア・ウルフ協会(運営委員)

VII その他の活動

外大市民講座「イギリス人の見た『源氏物語』」(1997)

Unity 公開講座「詩人の変身 - 新旧ワーズワス詩集について」(2002)